



東洋大学

外国学歴・資格認証システムとNQF ～日本への示唆～

Foreign Credential Evaluation (FCE)
and
National Qualification Framework (NQF)

Toyo Universiyt
Shingo Ashizawa

Foreign Credential Evaluation (FCE) in Europe

Council of Europe/UNESCO Convention on the Recognition of Qualifications (Lisbon, 1997)

- リスボン協定 (**Lisbon Recognition Convention**) が1999年2月に発効。外国学歴・資格評価に関して、重要な規程は2001年にリガで合意された、Recommendation on Criteria and Procedures for Assessment of Foreign Qualification がある。
- この規程では、欧州域内の学生や卒業生は 公平な扱いを受けることを前提に“degrees and periods of study must be recognized unless *substantial differences* can be proven by the institution that is charged with recognition.”と規定されている。

FCEの組織 (ENIC-NARIC)

- **NARIC**

(National Academic Recognition and Information Centers)

ECの主導で1984年に発足した組織で、学生の流動性を確保することを目的にSOCRATES / ERASMUSと連携した取り組みをすすめている。具体的には学歴(成績)・資格やディプロマの評価をメンバー国間で相互におこなうことが目的である。Member: EU諸国, EEA諸国、東欧諸国、キプロスなど30カ国。

- **ENIC** (European Network of National Information Centres on academic recognition and mobility).

Council of EuropeとUNESCOが共同提唱して、NARICと同様の趣旨をもつネットワーク、ENICが1994年に発足した。ENICには欧州全域のほかに、オーストラリア、カナダ、イスラエル、米国など55カ国が参加している。

ENIC-NARICの組織形態と実務

- 欧州各国にENIC-NARICセンターが設置されているが、国によって、設置形態や役割、機能は異なる。当然、活動能力も異なる。
- 殆どのENIC-NARICセンターが国家による財政支援を受けている。イギリスの場合は完全に民間営利機関がNARICセンターとして設置されている。ドイツでは国の傘下組織にNARICの機能が持たれている。
- ほとんどのENIC-NARICセンターは外国学歴・資格に関して大学に情報を提供し、助言をおこなう立場であるが、一部の国（ラトビアやキプロス）ではセンターが大学の合否にかかわる決定をしている。
- オランダの場合、NUFFICがNARICセンターとしての役割を担っている。NUFFICは国家予算により運営されているが、組織上は国からも大学からも独立した運営をしている。

国際評価研究から日本への示唆 —標準化と競争環境について—

- 国レベル、地域レベルで質保証の対応をはかりつつ、学位（学歴）や成績評価システムの標準化がすすんでいる。
- 個々の大学は、制度の標準化に対応しつつ、独自の教育・研究活動をプロモートしていくことが求められる。
- こうした中で各国における外国学歴・資格評価の進め方が高等教育機関の質保証とどうリンクしているか、に注目すべきである。

外国成績・資格認証 (FCE) と関連する概念

Quality Assurance (質保証)
大学の機関認証(アクレディテーション)など

Learning
Outcome
学習成果

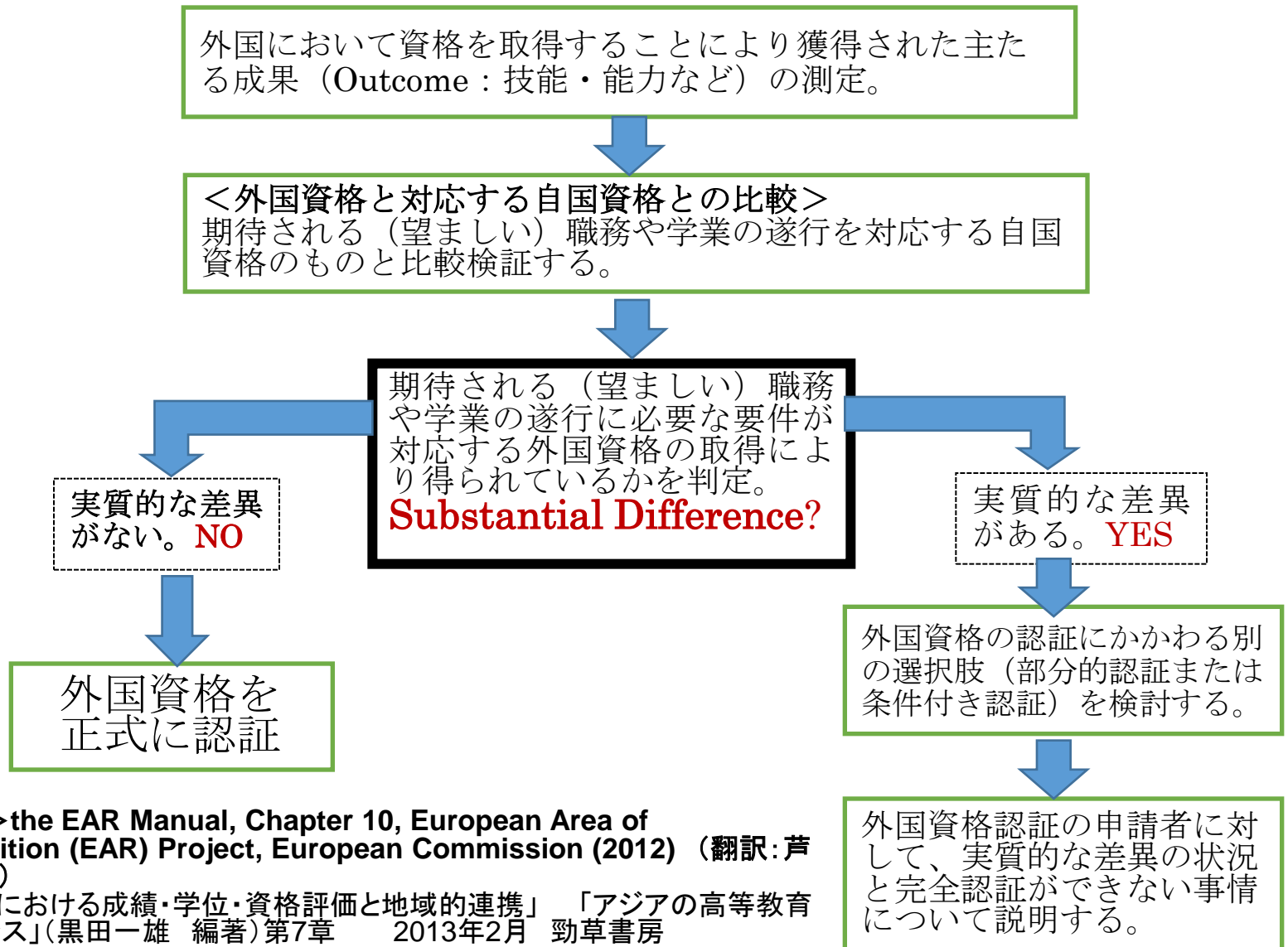
単位制度
単位互換システム
(ECTS, UMAPなど)

チューニング
・ ディプロマ・サプルメント
チューニングCore
・ 学位プロフィール

Qualification Framework
職業・職務の資格枠組み (EQF, NQF)

Recognition (資格認証)
外国成績・資格認証 (FCE)

「実質的な差異(Substantial Difference)」の概念と認証のフローチャート



<出典> the EAR Manual, Chapter 10, European Area of Recognition (EAR) Project, European Commission (2012) (翻訳: 芦沢, 太田)
「日中韓における成績・学位・資格評価と地域的連携」 「アジアの高等教育ガバナンス」(黒田一雄 編著)第7章 2013年2月 勁草書房

「実質的な差異」の判断基準

2012年のEuropean Area of Recognition(EAR) Reportより

Keyword	判断基準	ケース分析をする際に留意する指標およびプログラム
Level	資格枠組 (NQF)	EQF(欧州全体)とNQF(国レベル)の資格枠組みがFCEの判定にどの程度のインパクトを持つかを分析
Workload	単位互換システム	ECTSによる単位認定(他の単位互換システムとの連携)
Quality	学位の質保証	アクレディテーション、ディグリーミル問題など
Profile	チューニング	ディプロマ・サプリメント、チューニングCoreプロジェクトによる学位プロフィールなど
Learning Outcome	学習成果	可視化された学生の学びのプロセス。学位プロフィールの記載事項との調整

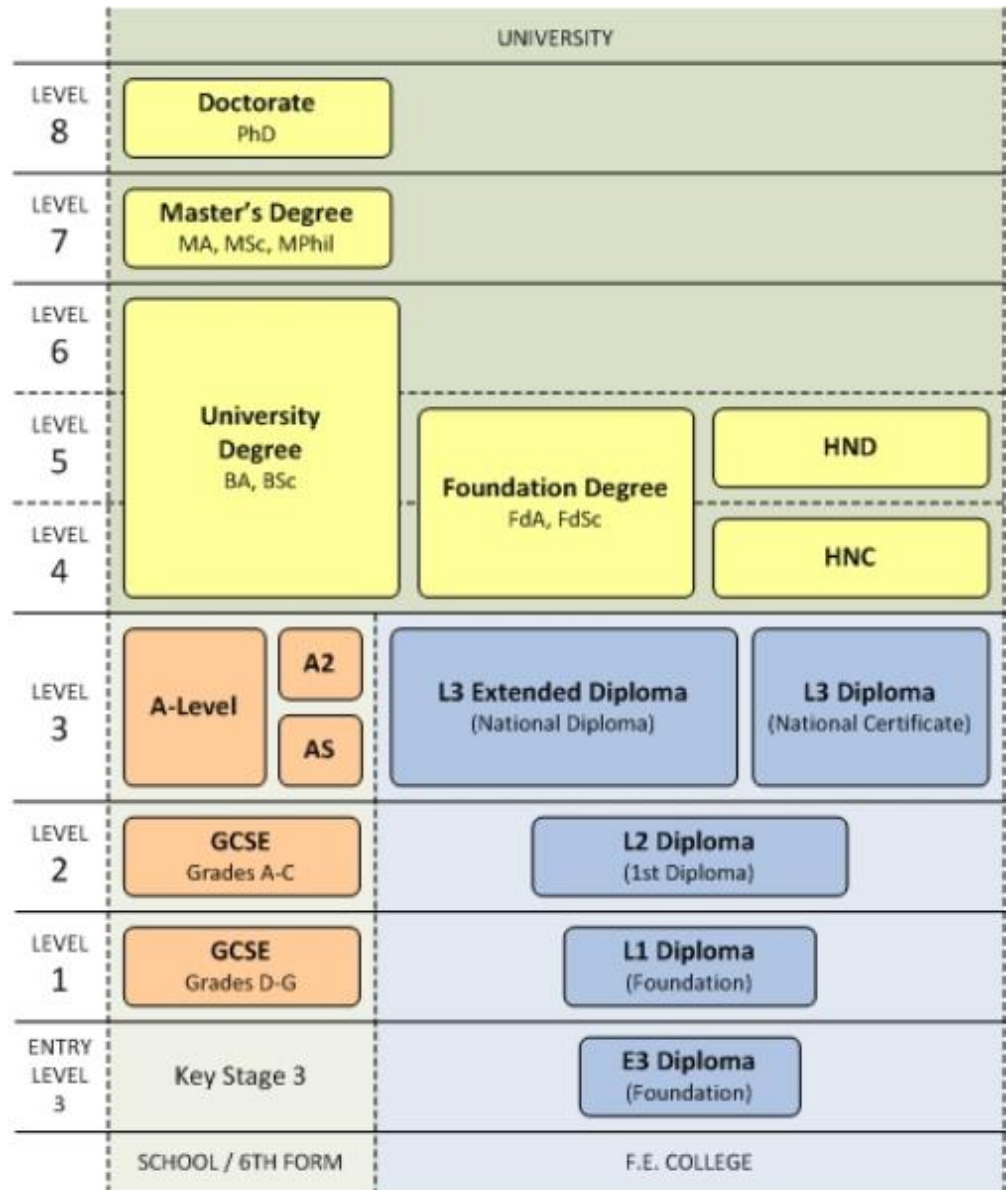
そもそも、Qualification Frameworkとは？

A qualifications framework is an instrument for the development and classification of qualifications according to a set of criteria for levels of learning achieved.... The scope of frameworks may be comprehensive of all learning achievement and pathways or may be confined to a particular sector.... Some frameworks may have more design elements and a tighter structure than others; some may have a legal basis whereas others represent a consensus of views of social partners. All qualifications frameworks, however, establish a basis for improving the quality, accessibility, linkages and public or labour market recognition of qualifications within a country and internationally (OECD 2007)

国レベルのQFは、Qualifications and Credit Framework という名称で単位互換システムとして発展してきた。

<事例>

QCF (Qualifications and Credit Framework) levels for common English and Welsh qualifications (secondary/tertiary)



Lisbon Recognition Convention (1997)リスボン条約

条約署名国: 55 か国 Australia, Canada, Israel, New Zealand, USA他

非署名国: Greece

批准国: 52か国

EU圏以外の批准国 Australia, Israel, New Zealandなど

Tokyo Recognition Convention (2011)東京条約

Asia-Pacific Regional Convention on the Recognition of Qualifications
in Higher Education

署名国 11

批准国 2

世界条約へ向けた検討

World Recognition Convention (2019を目標とする)

日本の将来：FCEがなぜ必要か？

<志願者のプロフィール>

1. 多様な国からの受験者
2. 多様なバックグラウンドを持つ志願者
3. 国際編入制度の積極的な運用による志願者増大
4. 海外大学の分校などで留学生の受け入れ

渡日前受験(直接出願による国際編入を含む)を英語学位コース以外にも拡大、発展させる。

多様な国からの留学生、多様なバックグラウンドをもつ学生の受け入れにはFCEは不可欠である。

教育の国際化

International Education

Transnational Education (TNE)
Joint/Double degree
Internationalization at Home
International Articulation
Credit Transfer

人材の流動化

Mobility of Human Resources

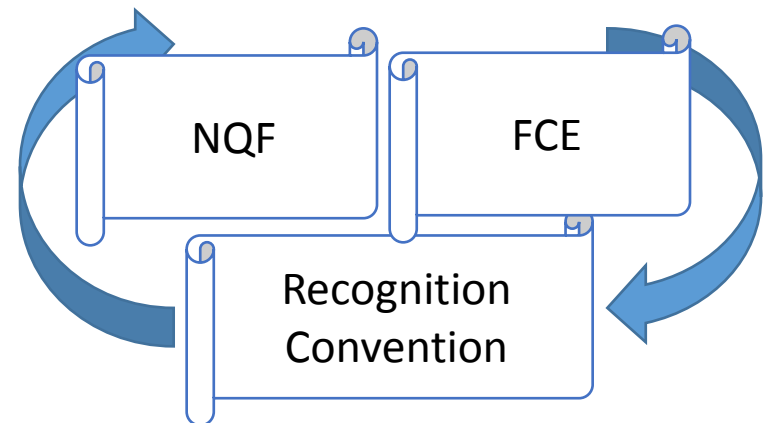
Academic Credential
Professional Experience
(Global JINZAI)
Life-long Education

多文化共生・異文化理解

Multiculturalism

Support for new commers

- Language
- Education
- Medical
- Career support



学習成果のデジタル化 グローニンゲン宣言に着目



Groningen
Declaration

Who we are ▾

What we do ▾

Get involved ▾

Events ▾

Media ▾

Contact us



The Future of Digital
Student Data Portability

Thank you for your attention!!

東洋大学 国際地域学部

芦沢真五

ashizawa@toyo.jp